

第12回薄川流域協議会 要旨

日時:平成16年5月27日(木) 18:30 ~ 20:50

場所:長野県松本勤労者福祉センター 1階 大会議室

次 第

- 1 開 会 (座長あいさつ)
- 2 議 事
 - (1)第11回協議会会議録
 - (2)会員からの資料請求
 - (3)河川改修原案に対する意見交換

資 料

- 薄川の河床整理(堆積土砂除去)の厚さについて 資料 - 3 2
薄川流域の砂防堰堤について 資料 - 3 3

資料は奈良井川改良事務所、松本合同庁舎行政情報コーナー、松本市役所、里山辺出張所で縦覧できます。

会員数

会員数 42名 (出席会員数 20名)

内 容

- 1 第11回協議会の会議録の内容について確認し、奈良井川改良事務所のホームページで公表することになりました。
- 2 前回の協議会で会員から資料請求のあった薄川の河床整理の厚さについて、事務局から資料32により説明を受けました。
- 3 薄川流域の砂防堰堤と治山事業について、事務局から資料33により説明を受けました。
- 4 提言書の起草委員を座長指名により3名選出し、起草委員は野原繁美さん(座長)、田口康夫さん(座長代理)、荒井宏行さん、高橋邦夫さん、巽朝子さんに決定しました。
- 5 第12回協議会では奈良井川、田川、薄川のA区間の河川改修計画原案について区間毎に意見交換を行い、残りの薄川のB~G区間については第13回協議会で、引き続き議論を行い、意見をまとめることになりました。

質疑・会員からの意見(議事録の内容について)

(質問) 松本市が平成11年にポンプを設置した場所を教えてください。

(回答) ポンプの設置は和泉川と逢初川の2箇所です。和泉川は田川との合流点の50mほど上流の並柳地区の水路が集まるところで、逢初川は田川との合流点です。

質疑・会員からの意見(薄川の河床整理(堆積土砂除去)の厚さについて,資料-32)

(質問) ABC区間の現在の状況は、河床整理直後と比べてどうなっているのか。河床整理前の状態に戻っているのか、河床整理後の状態と同じか、状況を知りたい。

(回答) C区間は350m³/sで改修が終わっているため、計画河床で河床整理を行っています。測量等の調査は行っていませんが、川の中の状況を見ますとC区間についてはほとんど土砂がたまっていないと思われます。また、A区間とB区間ですが、未改修区間で計画河床が決まっていないため、護岸沿いに入っている護床ブロックの高さ等を見て護岸の勾配に合わせて河床整理を行っています。河床整理をしてから、年月が経っていないこともあります。A区間とB区間もそれほど土砂が堆積していないと思われます。

(質問) C区間は土砂が溜まってないということですが、計画河床から70~80cm掘り下げたということですか。

(回答) C区間では改修後たまった土砂を計画河床まで掘削しました。改修後に溜まった土砂を取り除いただけで、掘り下げてはいません。

(質問) 改修後に土砂が溜まったということですが、改修工事が終わったのはいつか調べておいてください。

質疑・会員からの意見(薄川流域の砂防堰堤について,資料-33)

(質問) 扉砂防ダムの上いくつか国の管轄の治山堰堤が入っていると思いますが、全体の個数を知りたいので、次回までに調べてきて下さい。

(回答) 美ヶ原高原から三峰山にかけては国有林になっており、国の管理になっています。次回までに国有林の治山堰堤についても調べます。

(質問) 砂防堰堤の大きさ、規模について、どういう経過で決めていったのかわかりますか。一般論でいいですが、砂防ダムはどういう考えで入れているのでしょうか。

(回答) 扉砂防ダムは昭和49年の完成なので調べればわかると思いますが、昭和10年代完成のものは、資料が残っているか分かりません。砂防ダムの目的は、土砂の抑止と土石流の防止です。砂防ダムの上流では河床勾配が緩くなるので、土石流が発生した場合、土石流を止める効果があります。

(質問) 土砂の調節という意味での砂防ダムということですが、水系としてどのくらいの土砂が出てきて、どれ位の量を調節していくという考え方はあるのですか。土砂対策について、

現在のレベルが良いのか、もっと堰堤を作った方が良いのか議論を進めているので、土砂対策の考え方や数値的なものがあれば、わかりやすいと思う。

治山の方は、山脚の固定が主な目的ですか。国土交通省は『流砂系』という考え方を打ち出していますが、林務では『流砂系』という考え方は今まではなかったのか。

(回答) 砂防施設を水系全体として考えているか、この場では分かりませんので、次回までに調べてきます。

今まで作った治山堰堤は48基ありますが、高さや延長等が残っているだけで、目的までは残っていません。治山堰堤の目的は、砂防ダムと違い、上流からの土砂を止めるのではなく、山脚の固定と崩壊の防止が目的です。治山堰堤が階段のように何本も入っているところでは溪床勾配が緩くなっており、土石流を抑制する効果もあります。

土砂を流すという考え方については今後取り入れていく可能性があります。山脚固定は堰堤が土砂で埋まることを前提に考えていますので、従来の治山堰堤も土砂を溜めるように考えられていると思われます。

(質問) 砂防ダムと治山堰堤について、各々の効果確認は行っているのでしょうか。それとも、作ったら作ったままですか。

(回答) 砂防ダムですが、ダムに土砂をためるといった目的の他に、ダムに土砂がたまることにより河床勾配が緩くなり、土石流を止めるという目的があります。土砂をためる容量がどのくらい残っているか定期的な調査を行っているか分かりませんが、ダムの状況調査は行っており、その時に堆砂の状況については調べています。

治山堰堤については、堆砂状況については調査しておりません。治山堰堤は土砂がたまって効果を発揮するため、最近施工した新しいダム以外は、ほとんど土砂がたまっていると思います。堰堤の状態については随時確認しており、補修を行っています。

(質問) 今問題にしている田川や薄川について、砂防ダムや治山堰堤がどれだけ下流に効果が出ているか、そのへんはどうなのでしょう。

(回答) ダムにどのくらい容量が残っているかについては調査すれば分かると思いますが、下流に対してどれだけ効果があるのかは、分からないと思います。

(質問) 砂防ダムのうち満砂になっていないのは、扉砂防ダムだけです。薄川流域では、扉砂防ダムから下流の砂防ダムはすでに満砂しているので、土石流に対する一時的な抑止効果はありますが、生産土砂量がはっきりわからない、調べようがない状況では下流に対してどのくらい効果があるか分からないということですか。

(回答) そうです。

起草委員の選出

起草委員の人数

起草委員を座長と座長代理、委員から3名の計5名とすることを決定。

選出経過

立候補・・・なし

推 薦・・・なし

座長の指名・・・荒井宏行さん、高橋邦夫さん、巽朝子さんを選出しました。

河川改修原案について意見交換(奈良井川)

- (意見) 奈良井川は右岸が第二送水管のところまで改修が終わっているが、改修当時と比べると河床がだいぶ下がっている。そのへんをきちんと検証してほしい。
- (質問) 新橋の上で昭和58年に災害が起き、堤防決壊している。新橋付近は改修されており、流下能力も上がっている。昭和58年の災害後、橋が架け替えられているが、旧新橋と架け替えた後の流下能力はどの位変わっているのかを次回までに調べて来て欲しい。先程言われた工事が終わっている部分と田川合流点との中間は昔の堤防のままですが、堤防の工法と高さを調べておいてください。
田川合流点から新橋間の流下能力も、調べておいてください。
田川合流点下流の河川敷に植わっている木の状態を見ると昭和58年の災害でもそれほど害を受けなかったのではないかと思います。流下能力に余裕があれば残したほうがよいかと思えます。
田川合流点下流の工事をしていない区間は今のまましておくのか、それとも護岸をきちんとするのかについても次回までにお願したい。
- (質問) 田川と大門沢川の合流点のところでは女鳥羽川の工事をしているときに、左岸の州が削られ、州を保護するための工事を行っています。その工事の資料お願したい。
また、女鳥羽川の工事をしていたとき大門沢川の合流点のところに土砂が堆積していました。そのへんの河床あるいは堆砂の変動を資料として提出をお願いしたい。当時と現在の河床高について教えていただきたいと思えます。
- (質問) 大系線の鉄橋のすぐ上にわさび田があり、湧水から出た清流が集まっている場所があるので、そのまま保存するよう考えてもらいたい。
- (質問) 資料26の横断図 に松島橋から約150mぐらい下流の断面があり、2m掘り下げると書いてある。確かに土砂が溜まっている場所ですが、大門沢からうさぎ沢にかけては逆に掘れておりテラポットも沈んでいる。さらに下流の右岸側の墓地の下はえぐり取られている。水管橋の50mぐらい下流はテラポットが沈んでいる。このような状況を考えると、2mの掘り下げは必要ないのではないかと疑問に感じております。
- (回答) 河床掘り下げは、平均河床高から約2メートルということになります。資料の奈良井川の断面図では川底の1番低いところは計画河床高とほとんど同じになっていますが、現在深くなっている部分をさらに2メートル掘り下げるということではありません。
- (質問) 奈良井川は低いところは計画高と同じになっている。左右岸の州は、大水が出れば自然に流れていくので、削り取る必要は無いと思えます。
- (回答) 大水が出たときに州が必ず流れてくれれば問題ありませんが、州が流れない場合に流下能力が足りなくなります。河川改修を計画するとき、出水時に州が流れることを前提

に断面を計画することはできません。

- (質問) 図面で2メートル掘り下げると言うのは、どこから2メートル掘り下げるのかわかりやすい資料をお願いしたい。
- (質問) 資料26の横断図 に計画河床高の線がありますが、川底を平らにしてしまうと魚が住めないし草も生えない。県は、自然環境に配慮すると言っていたが、この川を魚が住めない川にしてしまうのか。
- (回答) 川の計画を立てるときには、まず台形の断面を考えます。川底を平らにすると魚等が住めなくなりますので、流下能力に余裕のあるところでは人工的に州を作ったり水の流れる岸辺に石を置くなどして生物が住めるような環境にしていきたいと考えています。
- (質問) 私の望むのはそういうことです。現在の断面をそのまま平行移動させるようなことはできないか。
- (回答) 奈良井川は高いところと低いところと差が大きいので、そのまま平行移動は難しいと思いますが、現在と同じような形で河床を変化させることは可能だと思います。流下能力に余裕があるところは河床を平らにするのではなく、水の流れる場所と流れない場所を作るのは可能だと思います。
- (質問) そのような状態で、改修をしていただきたい。高いところや低いところもある、そういう形にしてもらえれば、魚釣りもできる。平らな川は、背筋がぞっとする。
- (意見) 河床を掘り下げる計画になっていますが、谷底を流れるような環境で川が流れることが問題だと思います。また、松本にはいくつか井戸があり、かなりの方がペットボトル等で水を持ち帰っています。原点に戻って調査検討し、納得のいくような河川改修を行ってほしいと思います。
- (意見) 奈良井川の松島橋あたりの自然環境が問題になっていますが、大水が出たときにそこで受けられないか。松島橋のところだけでなく、薄川全体について考えていきたい。
- (質問) 左岸の土手を橋から下っていくと、道が途中でなくなってしまう。以前管理のための道路が必要と説明があったが、つながっていない場所がある。理由をお聞きしたい。
- (回答) 樽木川(くれきがわ)合流点で堤防道路がつながっていないということですが、上流側からも下流側からも樽木川合流点に行く道があり、水防活動等に支障がないため堤防道路がつながっていません。
- (意見) 樽木川はわさび田や水源地の余水が流れており、松本でも1,2といわれるほどのきれいな川で、自然がそのまま残っている場所なので、現在の自然環境を残せるよう工法を検討してほしいと思います。

河川改修原案について意見交換(田川)

- (意見) この区間は早瀬や平瀬があり、自然の川の形が残っている。掘り下げるにしても、このような自然の状態は残さなければいけないと思います。
- (意見) 河床を下げていくということは必要だとは思いますが、新橋から下流が下がっている影響で上流まで河床が下がっているのです、この部分は掘らなくても、自然と河床が下がると思う。河床を掘ると、さらに下がる可能性があるということを念頭においた方が良いでしょう。穴田川の合流点では、河床が80センチから1メートル位下がっている。穴田川は昔と比べ水質がよくなり、魚が戻りつつある。現在でも合流点に落差がついて、魚が上りにくい状態になっている。支川の水質がよくなり、魚が戻りつつありますので、それぞれの川との合流点の段差を解消するよう考えた方が良いでしょう。自然に河床が下がるということを中心に、魚道等を設計して欲しい。
- (意見) 薄川の合流点から奈良井川の合流点までに橋が8つある。県の案によると、5橋を架け替えるということになっているが、予算がかかりすぎるので架け替えしなくていいように橋を補強して、左岸の道路を潰せばよい。
- (回答) 道路の部分だけ広げても橋のところが狭いと流れを止めるようになってしまうのと、田川沿いには住宅が立ち並んでおり、道を潰すと出入りが出来なくなってしまうという問題もあります。そのため、掘り下げの提案になっています。
- (意見) 2,3軒は出入口りがつぶれてしまうが、他のところから出入りすればよいので、生活道路にはほとんど影響ないと思う。橋の部分は出っ張るので、橋台はそのまま残しておいて、橋台の裏側に護岸を作り、その部分だけ橋を足せばよい。そうすれば、架け替えよりもかなり安くなる。橋の真中ではなく端の方だから影響ない。
- (回答) 川幅を広げると橋台を動かすことになり、橋桁の長さも長くなるので、一般的に架け替えを考えます。今の橋のまま広げると川の中に橋台が残ることになり、橋脚が一つ増えるので河川構造令で決められた阻害率の問題がでてきます。今ここで結論をだすのではなく、提案として受け止めておきたいと思います。
- (意見) 橋脚が一つ増えることによりどのような影響が出るか、橋脚を一つ増やして橋を足す技術があるか、架け替えとどちらが安いかわかるといってほしい。橋脚を増やしたほうが安いとなれば、そういう工法も取り入れていく必要がある。
- (回答) 河川構造令の問題は調べてみなければ分かりませんが、技術的にはできないことはないと思います。橋梁の延長がよいのか架け替えが合理的なのか、橋の寿命などを含めた検討が必要なので、今の意見も考えに入れて検討していきたい。
- (意見) 落合橋の部分の流下能力が低いので、全体に影響を受けている。川底を掘り下げることになっているが、落合橋の部分だけでも拡幅をお願いしたい。道路分だけ川幅を広げれば、掘り下げる量が減ってくると思う。落合橋のところまでは、拡幅で考えていただきたい。

(質問) 橋の上面が堤防の高さと同じため、大水が出て流木が流れてきた場合、堤防が決壊する前に橋のところで木が引っ掛かります。橋げたの下の部分が、堤防と同じ高さになるようにすれば、少なくとも流木が引っ掛かって水が溢れることがなくなる。名古屋市の方では大体そのような橋になっている。そのようなことはできるのでしょうか。

(回答) 橋の桁下の高さは計画水位に余裕高を加えた高さを考慮して決めています。薄川では堤防道路を平らにするために、本来必要な堤防よりも高いところに道路がありますので、堤防の高さよりも橋げた方が低い位置に見えます。本来の堤防断面から考えると、橋桁の方が高い場所に作ってあります。

(質問) そうすると、薄川というのはかなり余裕のある川ということになりますね。

(回答) そういうことにはなりますが、河川計画では余裕として取り込めません。堤防の上が道路になっている場所では、堤防の必要高さではなく道路として必要な高さで作ってあるため、橋桁よりも堤防の方が高くなっていることがあります。橋桁を考えるため余裕として見込めません。

(質問) パラペットの部分は計画高水位の中に含まれるのですか。

(回答) 堤防の高さは計画高水時の水位に余裕高を足した高さになりますが、余裕高が確保できないところではパラペットを設置して対応できることになっています。

(質問) 国道19号の整備の話があるが、落合橋はどうなっているのか。資料の提出をお願いしたい。

(質問) 堤防ぎりぎりまで水がきた場合は水門を閉めると思いますが、内水氾濫を起こす危険性があると思います。ポンプが設置されているということですが、防災対策はどうなっているのか、松本市と県に聞きたい。

(回答) 本川の水位が上がると、支川の水が流れなくなったり、本川から逆流することが起こります。対策として、支川の堤防のかさ上げをやってきましたが、それでも間に合わない場合、緊急時に大型のポンプを据付られるような体制をとっております。

(回答) 県では、支川のからの流れ込みがスムーズになるよう、合流点付近の堆積土砂を取り除いています。

(質問) 女鳥羽川や大門沢川等の支川が直角に合流しており、大水が出たときバックウォーターが起きる。薄川の合流点では、水が同じ方向に流れている。合流点は必ずそのような形にしてほしい。ポンプを付けなくてもいいように、設計の段階で考えてほしい。

河川改修原案について意見交換(薄川A区間)

(意見) JRの鉄橋のところを3メートル掘り下げるとのことですが、3メートル掘り下げに疑問を感じています。

- (意見) 落合橋とこのA区間は、拡幅でやっていただきたい。拡幅すれば川底を痛めなくてもよいし、いろんな問題も解決できるので、ぜひお願いしたい。
- (意見) 私も拡幅がよいと思います。橋の延長を行い左岸側を広げ、JR橋のところは右岸の道路トンネルに洪水を流し、ナカッタヤを移転させればよいと思う。
- (意見) JR橋右岸のトンネルを潰すと生活道路の問題もありますが、生活道路は栈橋にしておいて、問題が解決したら取り外せばよいと思う。河床を掘り下げて断面積を稼ぐやり方は目先だけの考えで、長い目で見てみれば拡幅しかない。20年、30年かかってでも、拡幅するべきだ。
- (意見) 掘り下げは疑問で、ナカッタヤの南側は拡幅するべきだ。鉄道の橋には橋脚がないのに、すぐ上の本庄橋には橋脚があるが、本庄橋で橋脚を作ったのは疑問に思う。
- (意見) 近隣の住民から、本庄橋の上も含めて絶えず土砂を取ってくれと意見が出ています。地形上、土砂が堆積しやすい場所なので、河床を下げてでもすぐ土砂が溜まってしまう。やはり拡幅の方が良いと思う。地形的に土砂が溜まりやすく、何回も浚渫しているということであれば、拡幅がいちばん安全だと思う。土砂堆積の影響を少なくするためには、川を広げる方が良いと思う。道路はすべてつぶすのではなく、一方通行など考え、ぎりぎりの範囲で生活道路を確保するような形でやっていけばよいと思う。それが難ければ、拡幅と河床の掘り下げの併用はどうでしょうか。それでもだめなら、上流部に遊水地を作ればよい。いろいろな方法を考えていかなければいけないと思う。
- (意見) 拡幅に賛成です。掘り下げより拡幅の方が市民の理解が得られると思うので、基本設計は拡幅でお願いしたい。河川改修は下流から工事を行うのが原則と聞いていたが、ここだけ未改修で残っているのがおかしいと思う。
- (意見) ナカッタヤの南側付近はアカウオ(ウグイ)が産卵期になるとたくさん集まってくるが、掘り下げ工事をしてしまうと川は死んでしまいアカウオが来なくなる。拡幅できなければ、護岸を垂直にしたらいいと思う。
- (回答) 川の護岸を垂直にすることは可能ですが、景観上の問題と人が近づくのに危険という問題があります。そのため、改修計画原案は1:1勾配の護岸で提案しています。
- (意見) ナカッタヤの前だけでも護岸を垂直にしたらどうか。法律上出来ないのであればやむをえないが、美観の問題であれば150mくらいの間だけなので可能だと思う。地元の方は反対しますか。
- (回答) いまここでお答えすることはできません。提案ということでいただければよいかと思えます。